

わずかな記憶



写真■淀川

昭和10年から23年春までの記憶・・・

記憶・・・これは、私の数え年10歳から23歳の春までの微かな記憶を綴った物語です。

思い出なので不確かな点はお許しください。

「平成20年(2008)10月7日の新森～清水地域のまちあるきに参加して」まちあるきは新森中央公園から、ゆずり葉の道を北にむかって歩きました。途中で「昔あなたが住んでいたのはこの辺りではないか」と教えて頂きました。

よみがえる昔の記憶とは全く別の場所のようで、マンションや高い建物などばかりで空き地は少しも見あたりませんでした。

あなたが住んでいたのではー。

当時、私は両親と姉妹3人で新森小路中2丁目79番地に住んでいました。近くには市場があり、そこを東に入った2,3軒目で、筋向かいの角には美しい3姉妹がお母さんと文具屋さんをしておられました。校区は清水でしたが転校もせず古市尋常高等小学校に通っていました。

昭和12年(1937)には日支事変(日中戦争)が起こり、同16年(1941)には、太平洋戦争が始まり、この間、同14年(1939)には枚方の禁野火薬庫の爆発で、当時は理由が解らぬまま真っ赤な夜空に破片のようなものが飛び散るのを不安な気持ちで眺めていたのを覚えています。

近所では学校から帰った5,6人の男の子や4,5人の女の子と一緒に三輪車をつなげて乗りまわした

り、地面に輪をかいて石蹴り、けんぱ、ビー玉にめんこ、縄跳び、ゴムとび、ばい貝まわし、鬼ごっこ、かくれんぼ、戦争ごっこ、綾取り、せっせっせ、着せ替え人形などをして遊んでいました。

小学校6年頃は、くんずほぐれつ、仲良く喧嘩も適当にしながら楽しく過ごしました。お向かいの家庭で日曜学校を開いておられたので、みんなで押しかけ賛美歌を習ったり、お遊戯や演劇もした記憶があります。



写真■少女時代

あっちと、こっち。

小学校を出て、昭和14年(1939)4月には女学校に入り近所の男の子も中学校へ通うようになると、あれ程親しくしていたのに、道を歩くときは向こうと、こっち、電車に乗るときは前と後ろ、2両連結では、

前の車両は男子、女子は後ろの車両と決められていました。

当時、京阪電車の「新森小路」駅から京都方面へ乗車していましたが、聖母女学院には専用電車というの



写真■ダルマ池(上)

■アシが生えていた近くの広場(左)

があって、幼稚園・小学校・女学校と可愛い制服のお嬢さん達が、笑いざめきながら乗っていくのを少し羨ましく眺めていたものです。大阪方面へは、信愛女学校の専用車もあったとのこと。

戦争が激しくなるにつれ、今までの日常生活も徐々に変わっていきました。隣組というのができて、「とんとんとんからりと隣組、障子を開ければ顔なじみ、まわして頂戴回覧板、助けられたりたすけたり」の歌がはやり、なんでもみんなで助け合っという雰囲気が醸しだされてきました。乏しい物資の補いからか、

同じ班の人たちが寄り集まって共同炊事もやりました。

これは子供心にも関心十分で、今日はどんなご馳走かなど、わくわくしたことを思い出します。

後先は明確ではありませんが、休閑地利用が奨励され、そこらの空き地はすべて畑になりました。自給自足でさつま芋、馬鈴薯、南瓜、ねぎなど青い葉もの、私は落花生を作ったこともあります。

今考えると、どなたの土地だったのでしょうかね。

望めない時代

女学校には全校生で短歌を作って出す催しがあり、当時一年生だった私は「今しがたわが刈り捨てし芋づるを 通りがかりの馬食(は)みてをり」という短歌が入選し喜んだのですが、当時は運搬の手段に馬車が使われ、芋づるはおかずどころか、主食の足しにするような生活になっていきました。

日増しに戦局は厳しくなり、隣組ではモンペをはいて防空頭巾をかぶり、防火訓練、バケツリレー。食料は配給制度になり、

貫いに行くのにも列を作って並ぶ、ということになりました。

衣料は切符をもらって交換。好きな物を好きな時に好きなだけというのは望むべくもない毎日でした。お魚は丸のままなので、家で三枚におろすのも上手になりました。

ところで、子ども達は年長がリーダーとなって地域で班を組んで、これも避難訓練と称し清水小学校から旭警察まで歩いたこともあります。

写真■少女時代



この言葉が言いたい・・・

「好きなことを好きなだけ」